

《事後「振り返り」アンケート》まとめ  
研修全体：国際教育プログラムの学習成果（提出者 30 名）

1. この研修を通じて新たな学びがあった（回答箇所に○を記入）

とてもそう思う 28

そう思う 2

あまり思わない

全く思わない

2. 他大学の国際化の取組みについて学ぶことができた（回答箇所に○を記入）

とてもそう思う 23

そう思う 7

あまり思わない

全く思わない

3. 他大学の教職員などと交流を深めることができた（回答箇所に○を記入）

とてもそう思う 23

そう思う 7

あまり思わない

全く思わない

4. この研修を同僚や知り合いにすすめたい（回答箇所に○を記入）

とてもそう思う 21

そう思う 7

あまり思わない 2

全く思わない

5. 研修（前半）では何を学びましたか？新たな学びについて簡単に記述してください。

・教育手法とその検証等

・COIL 全般について

・COIL の実践について、その現状と課題について学ぶことができました。

・異文化理解に関する教育の理論や心がけるべきこと、また効果的なアイスブレイキング。

・セッション B で留学生のリクルーティングやアドミッションの方策について学びました。APU のアドミッション担当組織のメンバー構成や具体的な業務方法をご教示いただき、勤務先で不足している考え方や検討事項が明確になりました。また、新規学部を作る想定ของกลุ่มワークでは、JTB の方と一緒にワークを行うことで、大学職員とは違うを知ることができ、このような点も今後の業務に生かせそうだと思いました。

- 海外の動向、現状
- COIL の「そのもの内容」「運用までの背景、課題」
- 留学、異文化理解を評価するモデルを初めて知ることができた。
- 国際交流プログラムにおける振り返りの重要性…既存のプログラムでも事前・研修中・事後の指導をもう少し充実させられれば、学生の学習効果が一層高まるのではないかと感じました。
- 振り返りの大事さ
- COIL のツールやセットアップ方法について具体的に学ぶことができた。また、アセスメント方法も理解できた。
- 留学生リクルーティングの現状と今後について学べとても有意義な時間でした。
- ワークショップに参加して難しさもあったが、実際の学生目線で感じることができました。また大学への提案において JTB の持つコンテンツを活用いただく機会があるのではないかと感じました。
- COIL の概念および実践の具体的なイメージおよびツール
- 海外派遣プログラムを担当しており、特に事前事後を含めた体系的な学びを高めることについて、課題を感じていました。残念ながら全てを受講することができなかつたのですが、振り返りの重要性や学生の能動的な学びに繋がるアプローチ等を学び、大変勉強になりました。受講者の皆さんと体験したアクティビティも実際に学生にもやってもらいたいと思うものが多く、楽しく学ぶことができました。
- COIL 型学修を活用し、学生の異文化理解へのモチベーションを向上させること。また、実際のプログラムの運営にあたっては、ポートフォリオを用いて効果的に実施すること。
- 異文化学習の理論 -他大学での留学（派遣）関連の取り組み
- 異文化体験が与える効果とそれについての振り返りの大切さ、成長過程についての理論を学びました。現場で自分が見てきたことを改めて整理する良い機会になりました。
- 留学リクルーティングとアドミッション 留学生の動向やリクルーティングの考え方を学べました。
- 研修や体験を通じた学びでの振り返りの重要性。振り返りの具体的方法についてもっと情報を得たいと思った。
- 異文化理解の理論、留学成果の振り返りの具体的な手法や他大学の取り組みを知ることができてよかったです。
- セッション B 海外からのリクルートを実現するにはどれだけやるべきかを感じる事ができた。チャンスは大きいはずなので、今後どう実現するかが大切。
- 異文化交流のメソッドについて理解を深めた。

- 留学生リクルートは「いかに認知してもらうか」が課題かと思っていたが、もっと多層にわたりそれぞれに課題があることが分かりとても新鮮だった。

- 異文化理解という抽象的で感覚で理解していたものを、理論と文字化して学べた

- COIL を導入するにあたり、日米でいかに共同のカリキュラムづくりあげるかの要点を学べたことは意義深かった。また、実際に COIL を行う上で役立つアプリを操作してみてイメージがつかめた。

- 全体セッションとセッション B では、まさに今自身の業務で悩んでいること（外国学歴認証、各国の事情に合わせたリクルート方策の立て方、各国試験の点数化等）について、講義や、グループワークを通じて、実践的な知見を得ることができた。特に APU での各国事業に配慮した募集回数の多さ、出願書類審査を外部委託しているシステム化の度合い、グループワークでの各国教育制度情報ウェブサイトの活用方法などが参考になった。

- COIL 型教育や E ポートフォリオの活用方法を学ぶことができた。

- COIL について学ぶことができました。留学せずしても学生がグローバルな交流をすることができる素晴らしい方法だと思いました。

## 6. 研修（後半）では何を学びましたか？新たな学びについて簡単に記述してください。

- 実践的な留学生リクルーティングとその現状

- 異文化理解をめぐる理論と異文化理解教育のための方法

- 参加していません。

- 留学生リクルーティングのための様々な手段や、先進的な取り組みを行う APU の事例。

- セッション A で国際教育における異文化理解の促進について学びました。これまでの業務で学生の派遣や受入れを担当したことがなく、異文化理解について無知であったため、ご説明いただいたこと全てが新しい学びになりました。

- 日本国内における「入り口、途中、出口」

- 外国の教育制度

- COIL という手法を理解できた。機を見て導入を促したいと感じた。

- e ポートフォリオのシステムや活用事例 COIL の概念と、簡単にフリーで使える WEB ツールの活用方法

- 学生募集の具合的手法

- アドミッションに関わる業務の進め方が具体的な事例を通じてわかった。

- 論理等について学べ、また、様々な大学の方とのコミュニケーションを通じて気づきが

沢山ありました。

- ・留学生リクルーティングにおける知識を学ぶことができ、また具体的な手法・事例を学ぶことができ、大学の教職員の皆様方のソリューション提案をさせていただき上で、大変参考になりました。

- ・学生の留学レディネスの必要性

- ・異文化理解に対しては個人によって意識が異なるため、それぞれの段階に適合する効果的なプログラムを提供する必要があること。

- ・日本留学生動向 -APU 事例 -教育制度関連のウェブサイト、リソース

- ・最先端のメソッドやツールを知ることができ、現場でできることへの知識と可能性が広がりました。

- ・国際教育における異文化理解 ヨーロッパでの文化の捉え方や学生の異文化理解の促進について学びました。大学の国際教育

- ・学びの質を見える化するポートフォリオの便利さ。COIL については今後さらに発展が期待できる。

- ・ポートフォリオと COIL について、今までぼんやりとした理解だったのが、事例をもとに説明していただいたことで理解が明確になりました。また、実践例を多く共有していただいたことで、「あ、ここはうちでも応用できるな」と参考になる点が多くありました。

- ・セッション C COIL を使った授業を始めて体感することができた。また WEB ツールは授業であれちょっとしたアイスブレイキングであれ、使える場面は多くあると思った。

- ・COIL の存在を初めて知った。

- ・COIL の有用性が良く分かった。（民間企業の立場として）ぜひ多くの学生に COIL で実践力とチームワークスキルを学び取って、そして社会に出てほしいと願います。

- ・海外の大学との新たなコラボレーションの形。アプリを使って簡単に海外の大学と協働が出来る事に驚きました。

- ・e-ポートフォリオの活用方法・具体的事例について、東洋大学での具体的実践がとても参考になった。また COIL については、オンラインで国と国を繋いでやる授業、という程度の認識しかなかったのが、今回の講義で「そういうことだったのか」という発見の連続であった。フリーツールも非常に面白く、学生が主体的に参加できる工夫を ICT を駆使して実践されている様子に感銘を受けた。

- ・異文化感受性発達モデルについて段階別の効果的なプログラムを実施する必要があるということ学んだ。

## 7. 来年以降の研修で取り上げたほうが良いと思うテーマがありますか？

- 継続的に「留学生のリクルーティングとアドミッション」は続けてほしい。
- いまは思いつきません。
- 海外派遣学生を増やす効果的な方法。様々な国際教育プログラムの開発メソッド。
- 入試の業務においては、受験生が多国籍化するにつれ出願資格の確認作業がとても複雑化しています。 ついては、具体的な確認作業のグループワークや実習があると大変うれしく思います。
- いますぐ思いつきません。消化に時間がかかります。
- 学内危機管理の情報共有
- 留学の outcome を定量的に評価する手法について
- グローバル人材育成を目指したカリキュラム作りについて
- 引き続き COIL について取り上げて欲しい。
- 派遣留学の先進事例について
- 留学レディネスの実践事例
- 入試
- 留学生リクルーティングの会をもう一度お願いします
- 大学の国際化について
- 大学で取り組まれているグローバル教育に関わるスタートアップビジネスについて
- 協賛企業の取り組み事例の紹介
- COIL についてもっと知りたい。
- 海外からの留学生を増加させるための、大学としてのインフラ整備の取り組み方。英語での授業科目、寮、ホームステイ、アルバイト、インターンなど。
- カリキュラムの国際化を促進する上で、何が重要か。また、そのような科目を増やすために、職員として何がサポートできるのか。
- 外国学歴認証の具体的実践について
- COIL の具体的な例についてもっと知れたらありがたいです。

## 8. 研修の運営上、改善すべきこと、気づいたことがありますか？

- JTB 社員さんが多く、他大学の方との交流が薄れてしまった（特に懇親会）。
- パワーポイントの文字が全体的にやや小さめで、座席から読みにくいときがありました。
- もし可能であるならば、研修期間を2日間にご検討いただきたいです。これは「参加者にとって」というより、勤務先大学の理解を得やすくするためです。勤務先大学では、今回の研修への参加許可を出すにあたり、3日間という日数がネックになっていました。また、参加者の方でも2日間で帰られた方が数名見受けられましたので、この点については他大学でも同じ懸念事項なのかと感じています。ご検討のほど、よろしくお願いいたします。
- 三つのセッション全部に参加したいです。
- 運営スタッフに負担をかけすぎたと思います。申し訳ない気持ちいっぱいです。次回以降分担体制が整えばいいと思います。
- 名札またはネックホルダーの用意
- 3時間休憩なしはつらかった（トイレ等）
- 中日はランチ MTG もいいのでは？（お弁当用意）
- とても有意義な研修でしたので、分科会のようなものを行うなど年一度以上開催いただけると嬉しいです。
- 教員と中堅職員対象という点、どのレベル・年代の人が参加するのが適当か分かりづらかったです。英語力が全く無い人には英語の説明部分は難しいかなと思いました。（本学の国際交流部署の職員では英語力が無い人もいるため）
- 内容・ボリュームとも適切でした。より多くの大学から事例をの事例をお伺いできるとよいと思います。
- 閉鎖的な大学に外の風を吹き込むためにも、異業種間交流の場としても活用できると理想的である。その方々とのフリートークの時間なども設けてもらえるとありがたい。
- wifi 環境。少しつながりにくい時がありました。
- ホテルの連絡はもっと早く欲しかったです。
- 規模がちょうど良いと思いました。
- Wi-Fi が弱かった？
- トイレが汚い。
- 初めての参加でしたが勉強になりました。ただ、もう少し多くの大学（国公立、私立）関係者の参加があるとより多様な観点で学べるかなと感じました。

## 9. その他コメント

- ・非常に有意義な研修でした。ありがとうございました。
- ・貴重な機会を作っていただき、本当にありがとうございました。大変勉強になりました。
- ・芦沢先生はじめ今回の有意義な研修を企画してくださった方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。
- ・今回参加したことで、新しい学びや気づきを得られたことは当然ながら、他大学の職員の方々と親しくなり、課題やその対応策を共有できたことも、大変大きな収穫となりました。このような機会を得られたことをありがたく思います。次年度も開催されるようでしたら、できるだけ参加できるように、調整したいと思います。また、今回生まれた繋がりがこれで終わることのないようにしたいですし、主催者サイドでできることがあるようでしたら、その働きかけをお願いしたいとも思います。
- ・早期開催、告知をお待ちしています！
- ・国際交流部署経験が5ヶ月の私でも、とても有意義な研修になりました。
- ・大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・年に一回の交流でなく、日常の業務を進める中で交流が持てるコミュニティに発展すると思います。
- ・業務の都合で部分的にしか参加でしなかったのがとても残念でした。普段はなかなか他大学の方とゆっくり業務の話ができる機会がなかなか無いので、お互いの課題を共有しながら議論できたのがとても良かったです。
- ・ありがとうございました。
- ・次回がありましたら、部内の職員や教員にもぜひ繋いでいきたいと思います。ありがとうございました。
- ・非常に有意義な研修でした。また来年も参加したいです。ありがとうございました。
- ・大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・新鮮な情報がたくさんあり、楽しかったです。
- ・ほとんど知識がない状態から幅広い学びを得ることができました。ありがとうございました。
- ・大変貴重な機会を与えていただきありがとうございました。

2018年9月26日 まとめ